

平成 18 年度第 4 四半期（第 1 回）  
「M - 1 グランプリ」報告書



“小さな気づき”から“大きな成果”まで、日々の業務を行う中で実践した  
取組みの成果報告です。

平成 19 年 3 月

浜田市総合調整室

## 【 M-1 グランプリ エントリー 一覧 】

- 1 「本庁・支所間における公用車の相互使用制度」 (管財課)
- 2 「入札にかかる設計図書(仕様書)の電子データ配布」(管財課)
- 3 「浜田きらめき債」発行 (財政課)
- 4 「総合窓口サービスの開始」 (総合窓口課・窓口関係課)
- 5 「戸籍、住民票等の申請書の統合」  
(市民福祉部総合窓口課、金城・旭・弥栄支所市民福祉課、三隅支所市民課)
- 6 「市民との協働による食育の推進」 (子育て支援課)
- 7 「子育て応援隊」の育成 (子育て支援課)
- 8 「児童家庭相談に関わる関係機関との連携」 (子育て支援課)
- 9 「テレビ番組を活用しての情報発信」 (文化振興課)
- 10 「手話をコツコツ実践、窓口対応アップ」 (健康長寿課)
- 11 「コンテストを突破し、国から3年間の事業費獲得」 (産業企画課)
- 12 「がんばる企業を支援する仕組みを導入」 (産業企画課)
- 13 「中高大学生のボランティア活動のシステムづくり」 (生涯学習課)
- 14 「浜田の水産加工業の活性化」 (水産課)

番号は届出順

## 1 「本庁・支所間における公用車の相互使用制度」

総務部管財課

### 概 要

1月4日より、本庁・各支所の公用車について、本庁、各支所に公用車で乗り付け、会議等で長時間公用車を駐車する場合には、その公用車を他の職員が乗れるように管理体制を調整した。

### 成 果

経費節減 150 万円

本庁・各支所において、この制度により公用車を預ける職員が増えており、浜田市全体で、1台程度、公用車を購入したことと等しい成果をあげている。

公用車の絶対数が不足しているなか、本庁・各支所駐車場に『所属外の公用車が長時間に渡り駐車している場面を見かけることがある』とのことで、遊休公用車の活用ができるのではないかと、昨年6月から検討し、制度化した。

最終的には、浜田市全体で、2～3台程度の効果はでるのではないかと考えている。

## 2 「入札にかかる設計図書（仕様書）の電子データ配布」

総務部管財課

### 概 要

従前は、入札にかかる工事の設計図書について、管財課閲覧室にて事業者がコピー又は書き取り等を行っており、経費面（コピー代）や手間がかかっていた。このため、ペーパーレス、事業者の負担軽減を目的に、試行的に設計図書の電子データ（CD-R）による配布を行った。

### 成 果

市民サービスの向上

事業者は、管財課閲覧室に立ち寄ることなく、電子データ化された設計図書を持ち帰ることができ、『余分な時間と経費のロスが無くなる』と好評を得ている。

### 3 「浜田きらめき債」発行

企画財政部財政課

#### 概要

浜田駅北地区整備事業、CATV 整備事業に活用するため、浜田市初の住民参加型市場公募地方債「浜田きらめき債」(5年債)を発行することとし、2月19日から募集した。即日完売。発行日：3月1日 購入対象者：市内在住の個人(20歳以上) 発行額：2億円

**成果** 市民行政参加意識の高揚、資金調達の多様化、経済効果、財政効果(未定)

即日完売し、市民の関心の高さを伺うことができ、市民の行政参加意識について、一定の成果があったと認識している。また、より一層の行政参加意識の高揚に繋がる、今後の継続発行について良いPRとなった。

政府系資金の枠が縮小される中、従来の縁故債以外の資金調達手段の確保について足がかりになるものと判断している。

従来、政府、金融機関に支払を行っていた利子(域外流出)を市民に支払うことで、地域内での資金流通が期待できる。

1.4%利子 2,800千円×5年 = 14,000千円

### 4 「総合窓口サービスの開始」

市民福祉部総合窓口課・窓口関係課

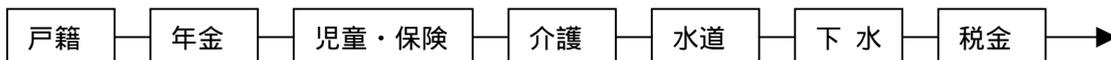
(地域福祉課、健康長寿課、子育て支援課、水道部、下水道部、税務課)

#### 概要

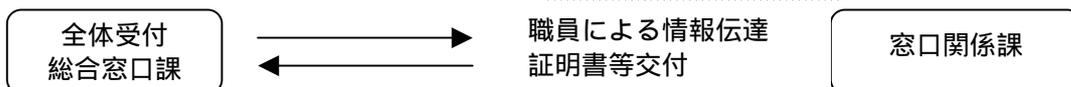
平成18年12月15日から出生、死亡、婚姻等の戸籍届出にかかる手続きをできるだけ一箇所の窓口で完了する体制を整備した。従来、最大で7箇所かかっていた窓口手続きが、現在は、1、2箇所の窓口移動で完了する体制となっている。

**成果** 市民サービスの向上、事務改善、事務時間短縮等

従来は、各窓口で受付・処理 市民の方が移動していた。



受付は総合窓口1回、各課並行処理 職員が連携をとり移動する。



市民は、最大7箇所から1~2箇所の窓口移動で手続完了。

総合窓口で全体調整を行い、手続き遺漏を防止。(市民主導を職員の調整に改善)

窓口受付事務の集中化、事務の並行処理による事務処理時間(市民の待ち時間)短縮。業務マニュアルの徹底等による職員の資質向上。

## 5 「戸籍、住民票等の申請書の統合」

市民福祉部総合窓口課、金城・旭・弥栄支所市民福祉課、三隅支所市民課

### 概要

年金、相続等の手続きでは、戸籍、住民票、印鑑証明など複数の証明書が必要になるため、これらの申請書を1枚にまとめ、裏面も活用し、複数の申請が1枚でできるよう申請書を改善した。

### 成果 市民サービスの向上(記入の省力化)、事務改善、経費節減

戸籍、住民票、印鑑証明、身分証明、戸籍届記載事項証明、諸証明の申請書を1枚にまとめたことにより、住所、氏名など重複記入が不要になった。また、必要事項の明記により、記入の軽減を図った。

手数料、申請書管理が容易になったほか、印刷経費の削減につながった。

## 6 「市民との協働による食育の推進」

市民福祉部子育て支援課（保育係）

### 概要

食の体験事業 = 県や JA・JF、食育推進ボランティアなどの協力を得て、市内の子どもや保護者を対象に「触れる」「つくる」「食べる」「交流する」等の直接体験学習を開催した。

「食育フェスタ in 浜田～元気な浜田っ子を育む～」を開催し、食に対する関心が高まった。

浜田市内の団体や個人で組織する「浜田市食育ネットワーク会議」を開催し、生活習慣や食生活に関するアンケート調査を小中学校で実施。その結果を、今後、「早寝早起き朝ごはん」運動など、食を通じた生活習慣の改善へと発展させていく予定。

### 成果 市民の健康意識の高揚、市民サービスの向上、市民と行政の協働

市民との協働事業による、食体験等を通じて「食文化の継承・食の安全安心の確保・食べることの大切さや楽しさ」等を市民に周知することができた。

JA や JF との協働により、子どもや若い母親などは地産地消への関心が高まった。

## 7 「子育て応援隊」の育成

市民福祉部子育て支援課（育成支援係）

### 概要

団体や個人が様々な名称や肩書きで行っていた子育て支援活動を、「子育て応援隊」という名称に統一。研修会や連絡会を開催して支援力の向上を図った。月1回「子育て情報誌」を発行。こころ協賛店や公民館などで応援隊や子育て家庭に配布。情報の提供や共有化を図っている。

現在124名の登録者を「企画広報部会」「子育て広場部会」「すくすく部会」「託児部会」「訪問部会」の5部会にわけ、子育て支援の方法を明確にするなど、住民の理解を深め、個人の力を発揮できる機会を多くした。

### 成果

住民主体のまちづくり、事務改善(組織のスリム化)、市民サービスの向上

浜田自治区内の公民館などで開催している「子育て広場」参加者の要望を取り入れながら、地域で自主的な運営ができるようになった。

浜田市の子育て環境について各自が身近にとらえ、これからの子どもたちの育ちに住民自らが深く関わりたいという思いが強くなった。

住民主体のまちづくりへの一歩となるとともに、行政の効率化にも繋がっている。

## 8 「児童家庭相談に関わる関係機関との連携」

市民福祉部子育て支援課（児童家庭相談係）

### 概要

平成17年の児童福祉法改正により、児童家庭相談窓口が新たにの業務となった。児童家庭相談係は窓口での相談業務に加え、保健師（子育て支援課）・医療専門監（地域医療対策課）・浜田ろう学校（島根県）・ウインド（島根県西部発達障害者支援センター）の4機関でチームを組み、市内保育所を巡回相談の形で訪問。早い段階での発達障害（またはその疑い）・児童虐待の予防及び早期発見に努めた。

### 成果

業務の効率化、システム化、市民サービスの向上

保育所で「気にはなるけれど、わざわざ子育て支援課に連絡するのはちょっと」と感じているケースも、こちらから出向くことによって早期対応が可能になった。

市の健診で気になった子どもを、複数の視点で確認することができた。

送迎・行事の様子を保育所から直接聞くことによって、家庭の様子を確認することができた。

## 9 「テレビ番組を活用しての情報発信」

教育部文化振興課

### 概要

平成18年11月23日(祝日)、浜田市合併1周年を記念してNHKの「BSふるさとみなさま劇場」の公開録画が石中央文化ホールを会場として開催された。

当番組は歌と芝居はもちろんのこと、地元の人々も舞台上に登場して番組を盛り上げるといふ、視聴者参加型の人気番組である。

地元の人々の参加については、中学生をはじめ三組のご夫婦の出演、各自治区の象徴的な風景や産業文化などの紹介ほか保育園児から高齢者まで、幅広い地域と世代の方々に参加・出演の交渉や要請を行い、番組構成に地域色が出るよう努めた。

### 成果

地域情報の発信、経済効果、住民サービス

公開録画の観覧を希望する応募はがきは県内外から5000通を超えるほどあった、視聴率も高く番組放映後も録画視聴への問合せがあったこともあわせ、本市の情報が全国に発信された。

番組制作や当日の収録のため、番組制作関係者をはじめ、県内外からの観覧者の来浜、それにとまなう宿泊や飲食など、経済効果が大きいにあった。

会場で観覧された方、番組に出演された方、さらにはテレビを視聴された方も含め、あらためて生活基盤であるふるさとへ愛着や再認識に、また地元がテレビ番組の舞台になったことで住民へのサービスにつながった。

## 10 「手話をコツコツ実践、窓口対応アップ」

市民福祉部健康長寿課

### 概要

障害者福祉係では、聴覚障害者に接するため毎日(月～金)手話奉仕員を配置している。

平成18年4月から毎朝のミーティングで、同係の職員7名がその手話奉仕員から一日1手話として手話を習い、自分で使えるよう勉強をしている。

### 成果

聴覚障害者の笑顔、来庁者と職員との信頼関係の醸成

現在では、次のような手話のやり取りを(当係の)職員全員ができる。

- ・みなさん、おはようございます。
- ・どんなご要件でしょうか。
- ・少しお待ちください。担当者と代わります。
- ・お疲れさま、お気をつけてお帰りください。など

## 11 「コンテストを突破し、国から3年間の事業費獲得」

産業経済部産業企画課

### 概要

国（厚生労働省）のコンテスト型委託事業にチャレンジしたところ、みごと突破し、3年間で1億円近い事業費の委託事業を受託することに成功した（裏負担なし）。この結果、「はまだ人材育成セミナー」として多くの人材育成事業や企業へのサービス事業をできるようになった。

### 成果

事業費節減（3年間で1億円近い事業費を獲得）。

通常できないプラスの事業の実施。全8コース51回の講座を実施、100人以上の受講生が学んだ。

事業期間の3年間で154名の新規雇用を目指している。H18年度の新規雇用数は4月に把握する予定。なお、H19.3月時点で1件の起業を生み出している。

## 12 「がんばる企業を支援する仕組みを導入」

産業経済部産業企画課

### 概要

がんばる企業を応援するため、そして企業と市職員の連携を密にするため、新製品開発や販路開拓など意欲的な企業に対して、コンテスト式の補助金を導入した（H18年度新規事業「ものづくりスタートアップ事業」）。

### 成果

4件の新製品開発、1件の特許取得、1件の販路開拓を支援

雇用面でもすでに10名以上の成果を確認している。

これまで知らずにいたオンリーワン企業の発掘、企業との信頼関係構築なども大きな成果である。

職員自身を仕事のあり方をデスクワーク中心から現場中心型へ改革する狙いもあった。この流れは年間延べ200社への企業訪問という数値目標（産業振興ビジョン）を設定することにもつながった。

## 13 「中高大学生のボランティア活動のシステムづくり」

教育部生涯学習課

### 概要

「青少年対象のボランティア情報紙」と「ボランティアカードの発行」「ボランティア活動の場・情報の提供 活動の実施 ボランティアカードの発行 学校への報告 はげみ」のシステムづくりを行った。情報紙「からすみ」の名前の由来は、ボラの卵から作られた「からすみ」。これから、ボランティアをスタートさせる子どもたち（ボランティアの卵）が、地域で活躍し、地域の宝となることを願ったもの。

### 成果

子どもにとって・・・ボランティア活動を認めてもらえることにより、はげみ、喜びにつながる。

学校にとって・・・子どもたちの地域での様子がわかる。

地域にとって・・・子どもたちと顔が見える関係作りができる。また、この情報は、大学や看護学校へも流し、この1枚の情報紙を通じて、別な面での協力体制も得ることができた。

## 14 「浜田の水産加工業の活性化」

産業経済部水産課

### 概要

当課にて事務局を務めている「浜田市水産物ブランド化戦略会議」の事業成果の一つとして、カレイの加工を主体とした浜田の水産加工業者において新たにマアジを加工する業者が増加した。

従来、浜田のマアジは、一大産地である沼津の原料供給地であったが、地元で加工することにより、新たな付加価値を付けることができ、地域外マネーの確保の拡大に繋がっている。

### 成果 水産加工業の活性化（産業振興）

浜田市水産物ブランド化戦略会議の構成団体が一体となって取り組んだことが、現場レベルでの意識改革につながり、その結果、マアジの加工業者が増え、生産量も増加した。

表) アジ塩干品の生産量の推移(単位:t)

商品名	区分	平成17年	平成16年	平成15年	平成14年	平成13年
アジ塩干品	全国	53,314	54,847	54,427	55,383	59,146
	島根県	728	632	548	629	713
	浜田市	299	162			
	全国との構成比	0.6%	0.4%	0.3%	0.3%	0.3%

資料根拠：島根県農林水産統計年報